



## 第6学年 組 道徳学習指導案

平成22年10月12日(火) 第5校時  
在籍児童数 男子20名 女子17名 計37名  
指導者 教諭  
場所 6年 組教室

1. 主題名 目標に向かって 1-(2) 希望、勇気、不撓不屈 関連 4-(7)
2. 資料名 「島村盛助—日本語と英語をつなぐ だれよりも言葉を大切にした英語学者—」

宮代町教育委員会発行副読本を参考にした自作資料

### 3. 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題である高学年の内容項目1-(2)「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する」は、自分の夢や目標など高い理想の実現に向けて、信念をもって最後まであきらめず努力していこうとする強い意志と実行力を育成することをねらいとしている。これは、中学校の内容項目1-(2)「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ」へとつながっていく。

よりよい自己の実現のためには、様々な困難や障害を克服していく強い意志と実行力が必要である。希望を失わず粘り強く努力することによって目標は実現される。子どもたちが体験する様々な出会いが、自身の生き方の目標となって形成されていくこの時期、資料に描かれた人物の生き方に出会い、それをひとつのモデルとして、自分の生き方と重ねながら考えさせることでねらいとする価値に迫りたい。

新学習指導要領では「魅力的な教材の開発と活用」として「先人の伝記」が挙げられている。そこで、郷土に生まれ、「言葉」を大切にしながら信念をもって英和辞典編纂を成し遂げた英語学者「島村盛助」の考え方や生き方に迫ることを通して、同じ宮代町に暮らす児童たちが夢をもって主体的に生きていこうとする態度を養いたいと考え本主題を設定した。

#### (2) 児童の実態について

本学級の児童は、「チャンス、チャレンジ、チェンジ」を学年の合言葉に、最高学年として様々なことに意欲的に取り組んでいる。1学期に行われた町内陸上大会では、学年全員で最後まで練習に取り組む、目標に向かって努力することや仲間と励ましあい共に頑張ることの大切さを実感できた。学年や学級で団結しみんなで協力してひとつの目標に向かって頑張ろうという意識は高い一方で、一人ひとりが自分のめあてを持ち、それに向かって精一杯努力しているかという課題や個人差がある。それほど高くない目標を設定したり、目標は立てたものの取り組みの途中で最初の決意が薄れたり、少々の失敗であきらめたりしてしまうことも少なくない。また、周囲の雰囲気によって自分の目標を達成できないこともある。島村盛助のように信念をもって最後まで努力する姿勢はぜひとも児童たちにもってほしいものである。

児童に行った意識調査の結果は以下のようであった。

1	あなたには憧れの人はいますか。	いる 22人	いない 14人	
2	あなたには夢や目標はありますか。	ある 29人	ない 8人	
	その夢や目標に向かって努力していることがありますか。	ある 23人	ない 6人	
3	今夢中になって努力していることはありますか。	ある 20人	ない 17人	
4	島村盛助という人を知っていますか。	はい 2人	いいえ 35人	
5	あなたは宮代町が好きですか。	好き 19人	どちらかといえば好き 12人	あまり好きではない 5人

1の憧れの人については、身近な友達が一番多く、スポーツ選手や俳優、親戚、自分のなりたい職業の人などであった。憧れる理由としては、その人の性格のよさや努力を挙げている児童もいたが、多くは「〇〇ができるから」「かっこいいから」など表面的なことに惹かれているだけで、その人物について深い思い入れはないように感じた。2~4については、多くの児童が夢や目標をもって生活をしている反面、夢も目標

もない児童もいる。また、夢や目標への努力や夢中になっていることへの努力も少ないのが実態である。アンケートを記入中、なかなか思いつかないでいる児童も多く、普段あまり意識していないと感じた。教師の願いや本時のねらいと児童たちの現段階での意識に差があることを把握しつつ、ねらいとする価値の自覚に迫れるよう授業を展開したい。

内容項目4-(7)の視点から5の質問をしたが、児童多くは自分たちの住む宮代町が好きである。郷土の偉人「島村盛助」を知ること、さらに宮代町への愛着や誇りをもって生活していけるようにしたい。

### (3) 資料について

本時は、宮代町教育委員会発行の副読本を活用し授業を展開する。本来、この資料は小学校卒業と中学校入学を控えた3月に実施し、「島村盛助」という人物の業績と考え方や生き方に心を打たれる中学生の主人公「わたし」の心情に共感させながら話し合わせるような展開が考えられる。しかし、この時期の児童の実態をふまえ、また同時期に「島村盛助」を顕彰する宮代町の英語発表会への参加もあるということから、中学生の主人公を登場させることなく、島村盛助自身を主人公にして授業を展開することにした。副読本に載っているエピソードや宮代町郷土資料館の学芸員さんからうかがったお話を中心資料とし、数々の写真や具体的な資料を提示していく。

宮代町に生まれた「島村盛助」は幼い頃から勉学に励み、高校・大学へと進むことがまれであった時代でありながら、浦和の中学を経て東京大学に進み英文学の勉強をする。大学卒業後、英語教師として学生に英語を教えるかわら、イギリスへ留学し英語の研究をする中で自分の目標「英語を正しく理解するために日本語を大切にする。言葉にこだわった英和辞典をつくる。」ことを決意する。そして、7年という歳月をかけて、「岩波英和辞典」を完成させていく。資料には、辞典編纂時の盛助の心情を表す記述はないが、「真っ赤に染まった原稿」や「3万4千語を7年もかけて」といった言葉とそれを示す具体的資料から、盛助の辞典編纂にかける思いについて話し合い考えを深めさせたい。さらに、盛助がつくった辞典を今でも大切に使用している人々がいるという事実にもふれることで、郷土の偉人島村盛助に対する尊敬の念や自らも目標に向かってよりよく生きていこうという積極的な姿勢を持たせたい。

## 4. 研究主題とのかかわりと他の教育活動との関連

「生きる力」をはぐくむ小中一貫教育の推進  
～人とのかかわりを大切にし、共によりよく生きようとする子どもの育成～

### (1) 研修主題とのかかわり

＜小中一貫の視点から＞

「しっかりきこう」を意識し、教師の話や友達の発言、ゲストティーチャーの話を実際に聞き、自分の心に響くものは何なのか考えられるようにする。また、友達の意見と自分の気持ちは同じ（似ている）か、違うかをはっきりさせながら心の学びを進める。自分とは違った意見であっても、その意見を聞いて納得したり、考えを深めたりすることで、よりよい価値に迫っていけるような時間にしていく。

＜「人とのかかわりを大切にする」視点から＞

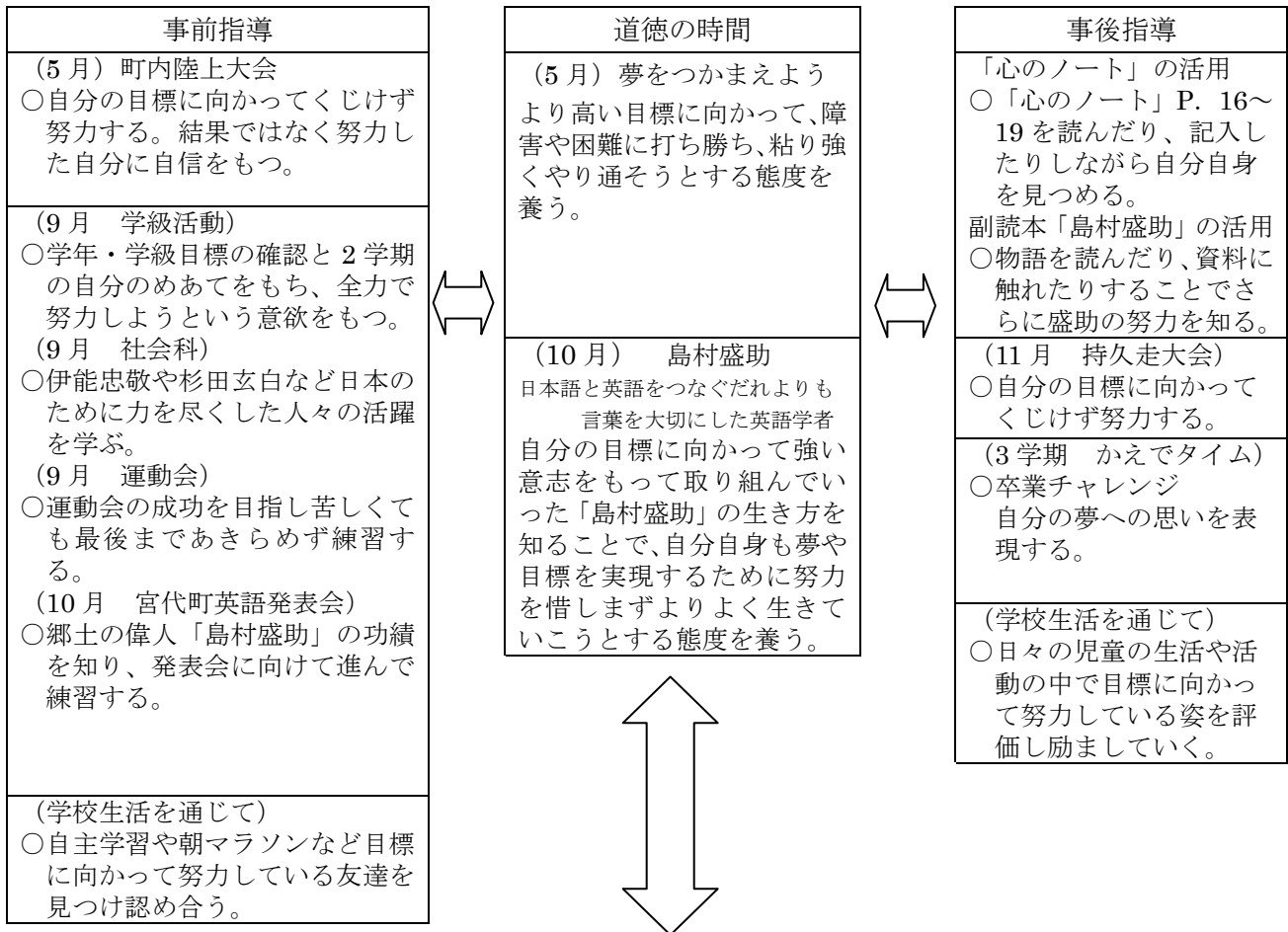
本時では、2つのかかわりを大切にする意識を授業を展開する。

1つ目は、目標に向かって努力した先人の生き方に出会う（かかわる）ということである。島村盛助との出会いを通して、彼の考え方に共感したり、感動したりすることを大切にしたい。児童たちが、名前も聞いたことがなかった郷土の偉人に興味をもってかかわっていけるように、郷土資料館の資料や実物などを活用する。また、盛助の辞典を使って学び、夢に向かって努力した身近な人として、本校の校長先生にゲストティーチャーとして児童とかかわっていただくことにした。

2つ目は、授業の中での仲間同士のかかわりである。本学級の4割の児童が道徳の時間を「あまり好きではない」と考えている。その理由は「自分の意見が言えない」「話し合いが苦手」ということである。普段

から自ら手を挙げ発言する児童は限られており、それを何とか克服したいと日々試行錯誤しているところである。道徳の時間の基本である「間違った答えはない」ということや何でも言い合える温かい雰囲気作りに努め、全員が自分の考えを持ち素直に表現できるようにしたい。そのために、話し合いの中でペアでの意見交換を取り入れる。全員の前では意見の言えない子も、隣の子に対してならば安心して言うことができるであろうし、聞く側も積極的にかわり自分の意見との相違を感じることが出来るようになるからである。そして、それが学級全体の話し合いに生きてくることを期待している。

(2) 他の教育活動との関連



家庭との連携
<p>学級通信等で児童の取り組みや授業の様子を伝える。</p> <p>家庭でも、夢や目標に向かって努力することについて話題にしてもらい、ご家族の体験談等を話し合う機会を設けてもらう。児童が目標をもって努力していることを認めていってもらえるよう声をかける。</p>

5 本時の学習活動

(1) ねらい

自分の目標に向かって強い意志をもって取り組んでいった「島村盛助」の生き方を知ること、自分自身も夢や目標を実現するために努力を惜しまずよりよく生きていこうとする態度を養う。

(2) 展開

段階	学習活動 ◎主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆◇評価【評価方法】	時間 資料
導入	<p>1 児童にとっての「あこがれの人」から興味をもたせ、宮代町の偉人「島村盛助」へに関心をつなげる。</p> <p>・島村盛助はどんなことをした人でしたか。</p>	<p>・英語辞典を作った人。 ・英語の本を訳した人。</p>	<p>・「あこがれの人」の生き方から学ぶことがあることを知り、盛助の生き方や考え方から学んでいこうという意欲をもたせる。</p> <p>・英語発表会のことを想起させ、事前に知っている盛助の功績などを挙げる。</p>	<p>3</p> <p>盛助の 写真  辞典の 写真</p>
展開	<p>2 資料の条件・状況を知り、話を聞く。</p> <p>3 心に残ったことを発表する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>登場人物：島村盛助（主人公） 条件・状況 明治 17 年、百間村の村長を務めるような立派な家に生まれた盛助は、小さな頃から俳句を好み勉学に励む少年だった。小学校卒業後、浦和の中学へ進み、東京大学に入学する。そして英文学と出会い研究していく。</p> </div> <p>・中学、高校や帝国大学に入れるように勉強したこと。 ・イギリスで決心したところ。 ・もとの原稿が真っ赤に染まるほど修正を繰り返したこと。 ・7 年もかけて辞典をつくったこと。 ・学芸員さんの最後の言葉</p>	<p>・文章で書かれた資料ではなく、教師が語ることで資料渡しをするので、写真や挿絵などを提示しながら心に響くようにする。 ・盛助が生まれた時代背景について押さえ、「英語」を学ぶということが今とは異なることをとらえさせる。</p> <p>◇児童が話の内容や状況をおさえられるような資料渡しの工夫ができたか。 ☆心に残ったところを見つけ、話し合おうとする意欲が持てたか。</p>	<p>12</p> <p>生家 俳句 帝国大学 山研大学 写真  夏目漱石 雑誌 写真  真っ赤に 染まった 原稿</p>
深める	<p>4 英和辞典をつくった盛助の思いについて話し合う。</p> <p>○盛助はどんな思いをもって辞典をつくり始めたのでしょうか。</p>	<p>・これこそが自分のやりたいことだ。 ・絶対にいい辞典を作ってみせる。 ・みんなが英語を正しい日本語に訳せるようにしたい。 ・これから英語を勉強する人たちの役に立ちたい。</p>	<p>・イギリスに渡った盛助の中に生まれた思いをふり振り返りながら、辞典編纂への強い意志と意欲に燃えていた盛助の思いに共感させる。</p>	<p>22</p>

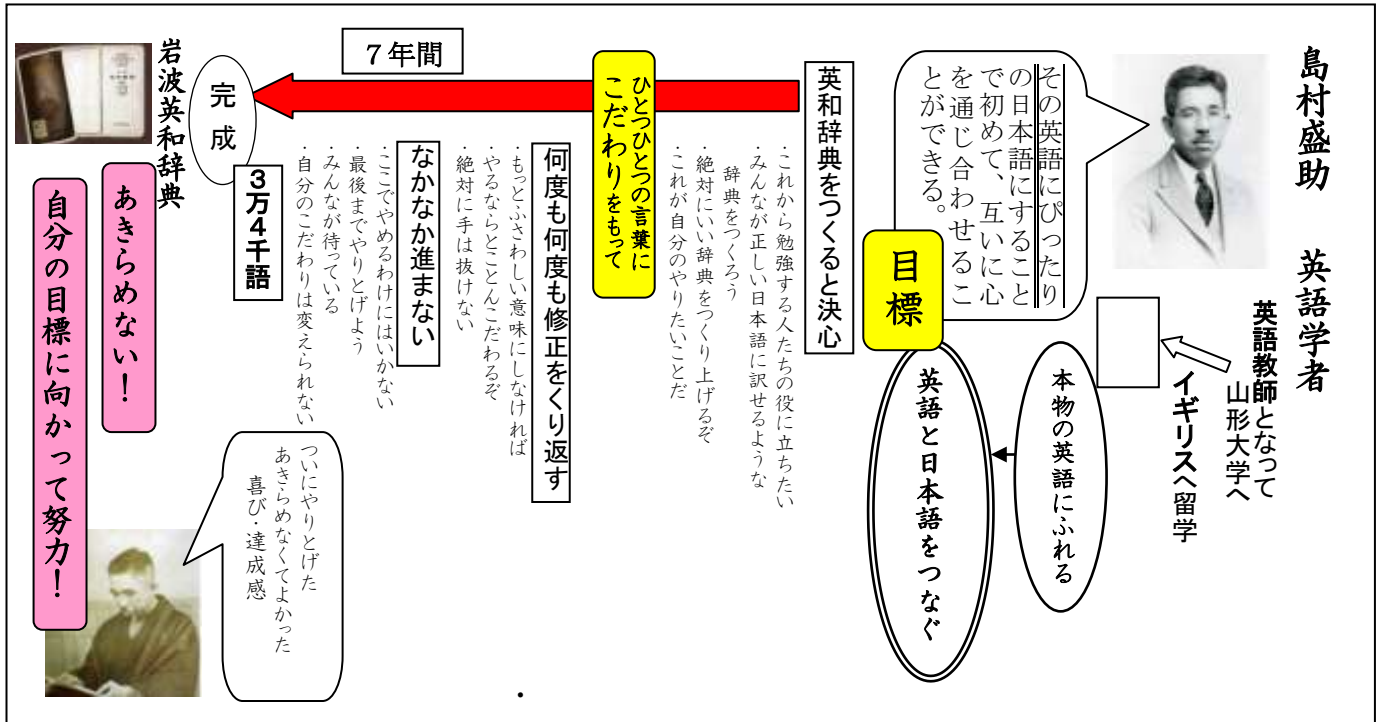
	<p>深める</p>	<p>○ひとつひとつの言葉にこだわって辞典をつくっているときの盛助はどんな思いだったのでしょうか。</p> <p>※原稿が真っ赤に染まるまで何度も何度も修正を繰り返したのはどうしてでしょう。</p> <p>※なぜそこまでひとつひとつの言葉にこだわったのでしょうか。</p> <p>※7年という長い間、盛助の思いを支えたものは何だったのでしょうか。</p> <p>○7年かけて完成させたとき盛助はどんな思いだったでしょう。</p> <p>※最後の単語を訳し終えた時、あるいは出来上がった辞典を手にとった時の盛助の気持ちを言葉にしてみてください。</p> <p>5 学芸員さんの思いや岩波英和辞典を今も大切に使っている人々がいることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の目指す辞典にしなければ…。</li> <li>・よりふさわしい日本語を見つけたい。</li> <li>・ぴったりとくる日本語が見つからなければ本当にわかり合うことはできないんだ。</li> <li>・手を抜くものか！</li> <li>・なかなか難しいな。</li> <li>・思った以上に時間がかかるな。</li> <li>・ここでやめたら今までの苦労が水の泡だ。</li> <li>・自分にとってはこの辞典づくりが全てなんだ。</li> <li>・どんなに時間がかかっても仕上げるぞ。</li> <li>・みんなが待っている。</li> <li>・一緒にがんばっている仲間もいるじゃないか。</li> <li>・ついにやり遂げたぞ。</li> <li>・あきらめなくてよかった。</li> <li>・私のこだわりが使う人たちに届いてほしい。</li> <li>・これでみんなが正しく英語を学べるはずだ。</li> <li>・盛助の思いが今もみんなに伝わっている。</li> <li>・盛助はみんなに夢を与えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盛助のこだわりや気持ちの強さに気付かせる。</li> <li>・いかにこだわった作業だったかということを実感させるために</li> <li>①実際に修正を繰り返した原稿を提示する。</li> <li>②7年間という長い期間に注目させる。</li> <li>・気の遠くなるような作業を7年間という長い時間取り組めたのはどうしてか話し合い考えを深める。</li> <li>・普通なら挫けそうになったり、あきらめたりするような作業をひたすらに続けることができた盛助の信念の強さを感じさせる。</li> <li>・最後までやり遂げたからこそ感じる喜びや達成感に共感させる。</li> </ul> <p>☆信念をもってやり遂げた思いに共感したり感動したりすることができたか。</p> <p>【発言・観察】</p>	<p>インターネットの言葉</p>
	<p>見つめる</p>	<p>6 自分たちの生活を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業で、盛助さんの生き方から何を学びましたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の決めたことを最後までやり抜くことは大切だ。</li> <li>・自分も夢や目標をもって、それに向かって努力していこう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「盛助はすごい」という感想で終わらないように、自己の生活を結び付けて考えさせる。</li> <li>☆これからの自分の生活の中で盛助のように自分の目標をもち粘り強く努力していこうという気持ちを持てたか。</li> </ul>	<p>5</p>
<p>終末</p>	<p>あたためる</p>	<p>7 校長先生の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この辞典を使って、目標に向かって努力した人にお話ししていただきましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も頑張っていこう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長先生の使っていた岩波英和辞典を見せ、一体誰のものなのか興味をもたせる。</li> <li>・校長先生も夢や目標に向かって努力してきた話を聞かせ、これからの生活への意欲を高める。</li> </ul>	<p>3</p> <p>校長先生 岩波英和辞典</p>

## 6 評価の観点

☆盛助の気持ちを考えることで、夢や目標をもって最後まで取り組むことの素晴らしさに気づき、自分自身の生活に対する意欲をもつことができたか。【発言・観察】

◇児童の心に響く資料渡しの工夫や素直な意見を引き出す発問の工夫ができたか。【発言・観察】

7. 板書計画



※条件・状況の部分(宮代に生まれる～帝国大学で英文学に会う)は、板書とは別に補助黒板等に提示する。

8 資料分析

場面	キーワード	主人公の心の動き	発問・話し合い
盛助の少年時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治時代</li> <li>・俳句などを好む</li> <li>・「何も学校なんかに行かなくても」と言われながら...</li> </ul>	<p>様々な文芸を好み親しんでいた。言葉を大切にする姿勢は幼い頃から身につけていたもの。難関である高等学校や帝国大学を目指して努力する。自分の道を切り開いていく。</p>	
イギリスに渡り感じたことが、辞典編纂につながる場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その英語にぴったりの日本語にすることで初めて、互いに心を通じ合わせることができるのだ。</li> <li>・英語と日本語をつなぐ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやるべきこと、目標が見つかった。</li> <li>・英語を学ぶ人が、その英語にふさわしい日本語を見つけられるような辞典をつくりたい。</li> <li>・とことんやってやる!</li> </ul>	<p>○盛助はどんな思いをもって辞典をつくり始めたのでしょうか。</p>
ひとつひとつの言葉にこだわりながら辞典をつくっている場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとつひとつの言葉にこだわった</li> <li>・何度も何度も修正を繰り返す。</li> <li>・元の原稿が注意書きで<u>真っ赤に染まる</u>。</li> <li>・1、2年で終わるはずが<u>7年間</u>かかって<u>やっと</u>完成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の目指す辞典にしなければ…。</li> <li>・よりふさわしい日本語を見つけよう。</li> <li>・みんなにいい物を届けたい。</li> <li>・手を抜くものか!</li> <li>・なかなか難しいな。</li> <li>・思った以上に時間がかかるな。</li> <li>・やめてしまおうか。</li> <li>・こんなにこだわっても意味があるだろうか。</li> <li>・ここでやめたら今までの苦労が水の泡だ。</li> <li>・一度決めたことだ、がんばろう。</li> <li>・どんなに時間がかかっても仕上げるぞ。</li> <li>・みんなが待っている。</li> <li>・一緒にがんばる仲間もいる。</li> </ul>	<p>○ひとつひとつの言葉にこだわって辞典をつくっているときの盛助はどんな思いだったのでしょうか。</p>

7年間かかって英和辞典を完成させたとき

7年間  
3万4千語

- ・ついにやり遂げたぞ。
- ・あきらめなくてよかった。
- ・みんなに使ってほしい。
- ・これでみんなが正しく英語を学べるはずだ。

○7年かけて完成させたとき盛助はどんな思いだったでしょう。

学芸員さんの言葉やインターネット上で見つけた言葉を知る

- ・盛助に「中途半端」はない。
- ・初めて買った、そして敬愛する岩波英和辞典（島村盛助）が僕に夢を与えてくれた。いくらお金を出されてもゆずることはできない。

（児童の考え）

- ・盛助は、自分の決めたことに向かってとことん努力する人だ。
- ・夢に向かってがんばったことがまわりの人にも夢を与えている。

提示資料 一 直筆の原稿（ 宮代町郷土資料館 提供 ）

